

新型コロナワクチン接種後 抗体検査

新型コロナワクチン接種が始まりました。自分自身がきちんと抗体を獲得できているか気になる方もいらっしゃるのではないのでしょうか？
当院では新型コロナワクチン接種後にIgG抗体(S)の獲得を確認する検査の実施を始めましたのでご案内いたします。

対象

検査を希望されるすべての方

料金

8800円

検査日時

診療時間内

検査方法

採血1～2mL程度

注意

- ・ 2回目のワクチン接種から28日後以降に外来にてご相談ください。
- ・ 当院の抗体検査は無症状の方のみおこなっております。
- ・ 検査2週間以内に発熱などの自覚症状を認める方は検査を控えてください。
- ・ 抗体検査をコロナウイルス感染症の確定診断に用いることはできません。
- ・ 検査結果がでるまで3日程かかります。

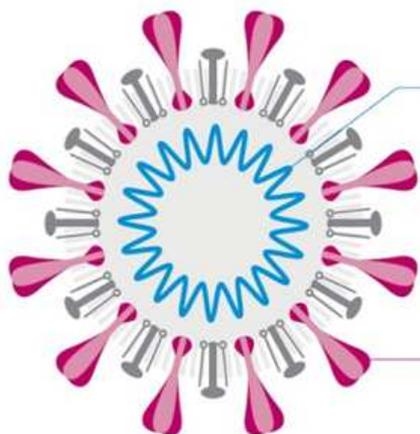
mRNAワクチンは、ウイルスの表面に存在し感染の成立に重要な役割を果たすスパイクタンパク質（S）に対する抗体を誘導することで、COVID-19の発症予防効果を発揮します。

その一方で、今まで行われてきた「抗体検査」は主にウイルスの遺伝情報を収納しているヌクレオカプシド（N）というタンパクに対する抗体であり、既感染の判定には有用であるものの、ワクチン接種後の抗体獲得の判定には不適でした。

スパイクタンパク質（S）に対する抗体は、新型コロナウイルスへの既感染およびワクチン接種後の抗体獲得を示す良い指標であり、ウイルスとヒト細胞との結合を阻害する中和抗体としての活性を有すると考えられています。

抗体検査の違いについて

新型コロナウイルスの構造



ヌクレオカプシドタンパク質（N）

ヌクレオカプシドタンパク質に対する抗体（IgG抗体（N））の保有は、新型コロナウイルスに感染したことがある可能性を示唆します。

IgG抗体（N）

過去の自然感染を示唆

スパイクタンパク質（S）

スパイクタンパク質に対する抗体（IgG抗体（S））は新型コロナウイルスに感染あるいはワクチン接種により中和抗体が産生された可能性を示唆します。

IgG抗体（S）

中和抗体が産生された可能性を示唆

（アボットジャパン合同会社資料より引用）

IgG抗体（N）： Elecsys Anti-SARS-CoV-2 → 過去感染の判定

IgG抗体（S）： ARCHITECT SARS-CoV-2 IgG II Quant → 過去感染の判定、ワクチン後の中和抗体活性

お問い合わせ

有隣病院

03-3482-3611

【お電話の受付時間】

午前：9:00-12:00 午後：14:00-16:30